

ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (農林水産業みらいプロジェクトコース)		訪問国	ミクロネシア	
学校名	焼津水産高等学校	氏名	石原成真	学年	2

私は、トビタテ留学ジャパンのふじのくにグローバル人材育成事業2期生として留学しました。自分は小さいときから近くに海があり、それが当たり前だと思っていました。しかし年がたつにつれ、海洋環境が変化していき魚が獲れなくなってきました。その原因を知るために留学へ応募し、日本の海を変えるという目標を持ちました。書類審査の書類作成をしている間や、計画を作るとともに留学へ行きたいと言う思いも強くなっていきました。そうして、迎えた審査の日、自分は思っていたことを素直に心のまま話して熱意を伝えました。しかし、途中で言葉に詰まったり、噛んだりなどいろいろやらかしましたが一生懸命にやりました。そして、トビタテの書類面接や面接などを受け無事に合格することが出来ました。合格通知票が届いた時には、とても嬉しかったです。

それから、留学の支度や手続きなどをこなし留学前日、とても不安で本当に大丈夫だろうか、困っても人にうまく聞けるだろうか、言葉は通じるだろうか。など多くの不安に駆られていました。そうして留学当日、日本の空港で緊張しまくり、大丈夫だろうか、と言う気持ちもあったが、なぜか楽しみだと言う気持ちもありとてもわくわくしている自分がいました。そうして、日本を離れ乗り換えのためにグアムへ行きました。すでに、自分は知らない世界へ来てしまったなと感じましたが、日本とは違う景色、空気、雰囲気すべてに感動しました。最初にテンションが上がったのは、車が左ハンドルだったことです。そんなこともあり、本命のポンペイ島へ向かっていきました。ポンペイ島へは、いくつかの島を渡る小さな飛行機へ乗る必要があります。その登場口はグアムの空港の端にあって本当に合っているか心配になりました。そして最初の島、チューク島へ着きました。そこで驚きの事実が発覚しました。島国で滑走路が短いため、急着陸、急離陸で衝撃がすごかったです。お尻が浮いて前の席に突っ込む勢いでまるでジェットコースターみたいだなと感じました。

いよいよ、ポンペイ島へ着きました。気温は、日本よりも暑く、でも肌がべたつかない程度の湿度で、過ごしやすそうだなと感じました。現地でお世話になるケニーさんと合流し、ポンペイの空港から町まで行きました。想像していたイメージとは、かけ離れていて、ジャングルの中にコンクリートの建造物が建っていて、しかも、建物すべてがカラフルで明るい町だなと感じました。そうして、自分たちの住むアパートのオーナーさんのところへ行き手続きと、鍵をもらいました。そうして、アパートに着きポンペイの冒険のスタートです。ポンペイに行き当日に気づいたことは、犬や鶏が放し飼いで道路や店の前を歩いていて、日本では考えられないなと感じました。そうして次の日、早速地元



の港や魚屋へ行きました。そこには、日本では見られないような、カラフルな魚たちやマグロや鰹など様々な魚が置いてありました。そこで気になった事、探求のテーマにも関連している魚のおいしい食べ方を教えられるなど感じました。魚屋では、氷や水につけずに、日向の直射日光の当たる机の上にそのまま置いてありました。それを現地の人たちは買っていきます。そこで、聞いてみました。「それはどうやって食べるのですか？」そうしたら、「焼いて食べるよ」と言っていました。さすがに火は通すのだなと感じました。でも、衛生的にあまりよくないとも思いました。

そうして、売られている魚の味が気になったので、買って食べてみることにしました。そうしたらなんと、味は普通で違和感なく食べられました。しかし、その数時間後に少しお腹を壊しましたが、すぐに治りました。その時、日本の衛生管理はすごいのだと感じました。その後、現地の学校や水産関係の会社や施設を訪れ、インタビューや一緒に活動しました。ある海洋施設へ行き話を聞いていると、今回の留学の答えがわかりました。「今、何が主な海洋問題ですか？また、それを解決するために何をすべきですか？」そうしたら、「まだ、何が海洋問題か明確にわかっていなくて、プラスチックや温暖化だけではないと言っていて、それを解決するためには、世界中のあらゆる海洋問題の情報がないといけないと言っていた。」それを聞いて、自分は、海洋問題を解決するために、留学へ来たのが、その根底、海洋問題とは？になって規模、スケールの違いを知りました。ですが、自分たちが海に対してもっとアピールして、興味を持ってもらえれば、情報が集まり、より早い海洋問題の解決につながるのではないかと感じました。そのために、留学を通して、学んだ事、日本で学んだことをもっと世界中に発信していきたいです。ポンペイの人たちが言っていた言葉があります「海は私たちを切り離す壁ではなく、私たちがつながれる橋だと」その言葉を聞き、確かに、見方を変えれば同じ海でつながっていて、言葉が通じないところでも、海を思う気持ちは一緒なのだなと感じました。

ほかにも、水産系以外で空港の避難訓練に参加させてもらいました。自分たちは怪我人役を遣らしてもらって、普通の人、留学生でも出来ないような体験をさせてもらいました。とても印象に残っています。

留学を通して、自分の意外な一面、コミュニケーション能力が意外と高かったり、チャレンジ精神があったり、案外食に対して耐性があったりなど知らない一面を見られて良かったです。留学に行けて人生が変わったのもそうですが、日本中世界中に友達を作ることが出来てとても嬉しかったです。これからも、いろんなことに自分から挑戦していきたいと思います。また、トビタテ、ふじのくにの留学する後輩たちの少しは助けられる様に、活躍したいと感じたのもありますが、ふじのくになど本部、運営側にも手伝いが出来たらなと感じました。なので、積極的に参加したいです。

